

日建設計の共創プラットフォーム
PYNTによる社会共創事業

NIKKEN

JUNE 2026

本プログラム概要

我が国では少子化・高齢化による人口減少や地域の担い手不足に加え、地方都市においては地場産業の衰退など、人の暮らしや地域社会を脅かす社会課題は、深刻さを増しています。こうした状況に対し、これまで120年以上に渡り、建築・都市領域を基軸に新たな体験価値を届けるため、社会環境デザインの先端を切り拓いてきた日建設計は、ありたい未来社会の実現に視点（=レンズ）を向け、地域社会の課題に先駆者として取り組んでいる企業等と手を取り合い、課題解決を促進していきたいと考え、本プログラムを始動します。

既に価値の認められているソリューションだけでなく、取り組む課題の意義や事業の価値を理論構築していくことで社会実装の実現に導いていくことが本プログラムの目的です。

新しい人の暮らしや社会のあり方を共に考え、創り出すことのできる仲間を募集します。是非多くの皆さまからのご応募をお待ちしています。

—— 地域の社会起業家と建築都市の専門家がともに「まちの未来」を実証する、 —— 社会環境共創プログラム

地域で社会課題と向き合う実践者の高い
解像度と、日建設計が125年以上かけて
培ってきた社会環境デザインの専門性と
リソース。

このふたつが接続することで、地域の持
続性を支える新しい仕組みを共につくっ
ていく。

それがFUTURE LENSです。



日建設計・PYNT紹介

— 日建設計とは

- 建築の設計監理、都市デザイン・地域計画、及びこれらに関連する調査・企画・コンサルティング業務を行うプロフェッショナルサービスファームです。
- 1900年の創業以来、時代や環境変化に伴う要請に応じて数多くのプロジェクトを推進しています。

— 日建設計の特徴

● まちに求められる機能を構想し、中長期で新しい価値を社会に実装

未来の建物や都市における提供価値や必要な機能を構想し、初期段階で盛り込むべき要素を抽出し、基本戦略や設計に反映。構想・計画から実装まで、数十年単位での中長期にわたるまちづくりに取り組み、新しい価値を着実に社会実装まで導いています。

● 人の暮らしや、その背景にあるシステムを含めた「社会環境」をデザイン

人の暮らしや目には見えない社会システムを含めて「社会環境」と捉え、建築や都市の設計に取り組んでいます。行政や民間、地域住民など多様な関係者と協調し、必要な制度改定や仕組みの提案を行いながら、時代に合った社会環境の実現に挑戦してきました。

● 120年以上にわたり、時代と社会ニーズに応えるまちを手がけてきた多様で高度な専門性

120年以上にわたり、一貫して時代の要請に応えるまちづくりを実現。こうして培ってきた建築と都市に関する経験と知見、そして建築設計事務所最多の一級建築士を始めとした、多種多様な社員の専門性と技術を組み合わせることで、新たな価値の創出を目指しています。



これまでのプロジェクト事例

東京スカイツリーの設計

- 世界一の電波塔である東京スカイツリーと併設する商業施設の設計を手がけています。
- 未知の高さに挑戦するにあたり、安全性を確保するため最新技術を結集。地震や強風にも揺るがない構造/システムを生み出しました。
- さらに、デザインや色彩に日本古来の美意識を取り入れ、時代を超えて人々の記憶に残る新しいランドスケープを創り出しています。

[東京スカイツリーの詳細記事はこちら](#)



©TOKYO-SKYTREE

原爆ドームの耐震補強工事

- 原爆ドームの耐震補強工事では、遺跡の持つ複雑な歴史と人々の想いをそのまま未来に繋げていくために、文化的価値と耐震性の両立を目指した設計が行われました。
- 最新の耐震技術ではなく、「文化財的価値や尊厳」を守ることを優先して手法を検討。未来に可逆性を残しつつ、外観の変更のない、必要最小限の対策で補強が行われました。

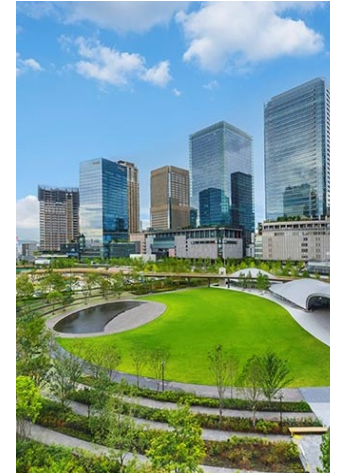
[原爆ドームの詳細記事はこちら](#)



グラングリーン大阪の都市開発

- JR大阪駅前において、ターミナル駅直結では世界最大級の都市公園を中心とした開発を行いました。公民連携により、敷地全体で建築とみどりが一体化した空間デザインを創出し、「公園の中にあるまち」を実現しています。
- 都市緑化の価値を、温室効果ガス削減など5つの評価軸で可視化する「みどりのものさし」も実施しています。

[グラングリーン大阪の詳細記事はこちら](#)



撮影：Akira Ito.aifoto

瑞浪北中学校でのゼロエネルギー化

- 地域特性を生かした省エネ技術と子供たちへの環境教育を取り入れ、学校施設として日本で初めてゼロエネルギー化を達成。
- 瑞浪の伝統的な陶器窯の仕組みを取り入れた階段など、建造物での工夫に加え、生徒がリアルタイムで環境を確認・操作できる「エコモニター」を各教室に設置するなど、生徒の自発的な省エネ行動を促す仕組みを校内に取り入れてます。

[瑞浪北中学校の詳細記事はこちら](#)

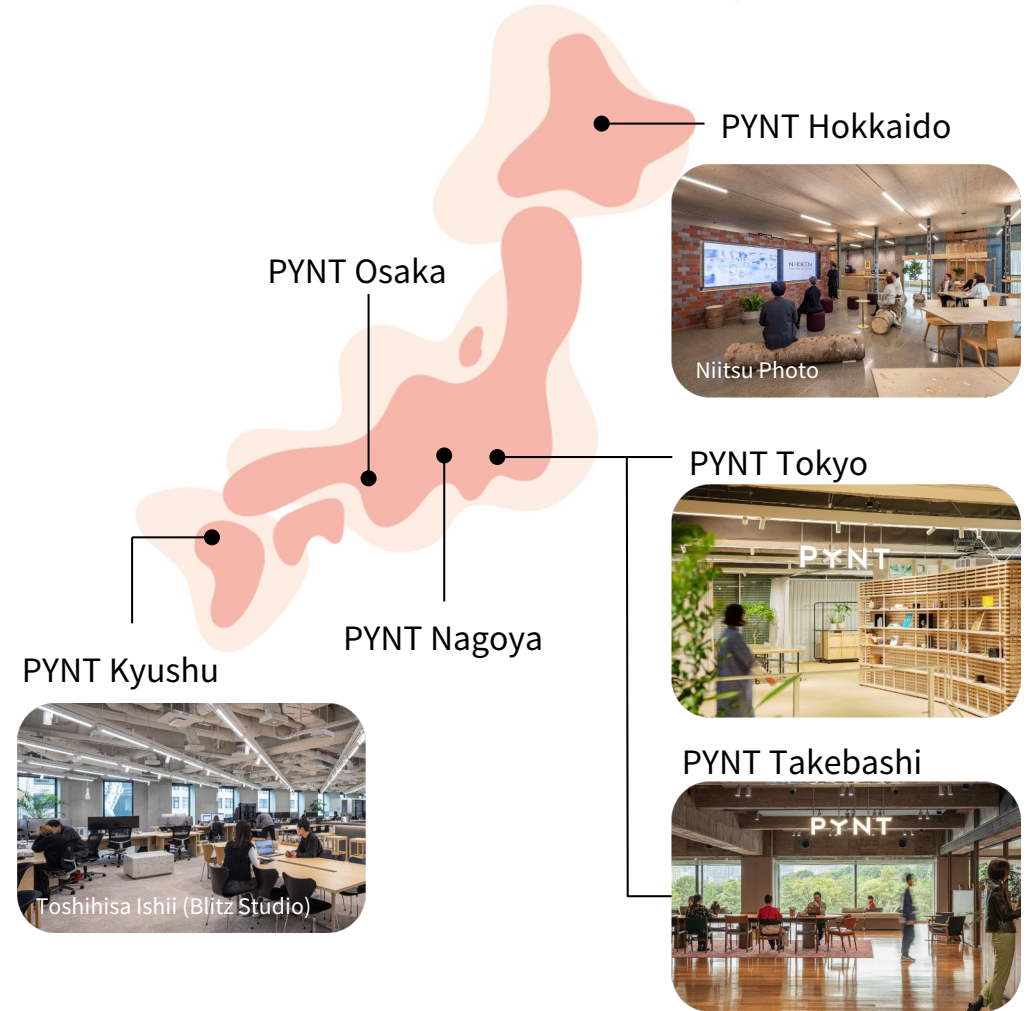


撮影：車田保

PYNTについて

— まちの未来に新しい選択肢をつくる共創プラットフォーム「PYNT」

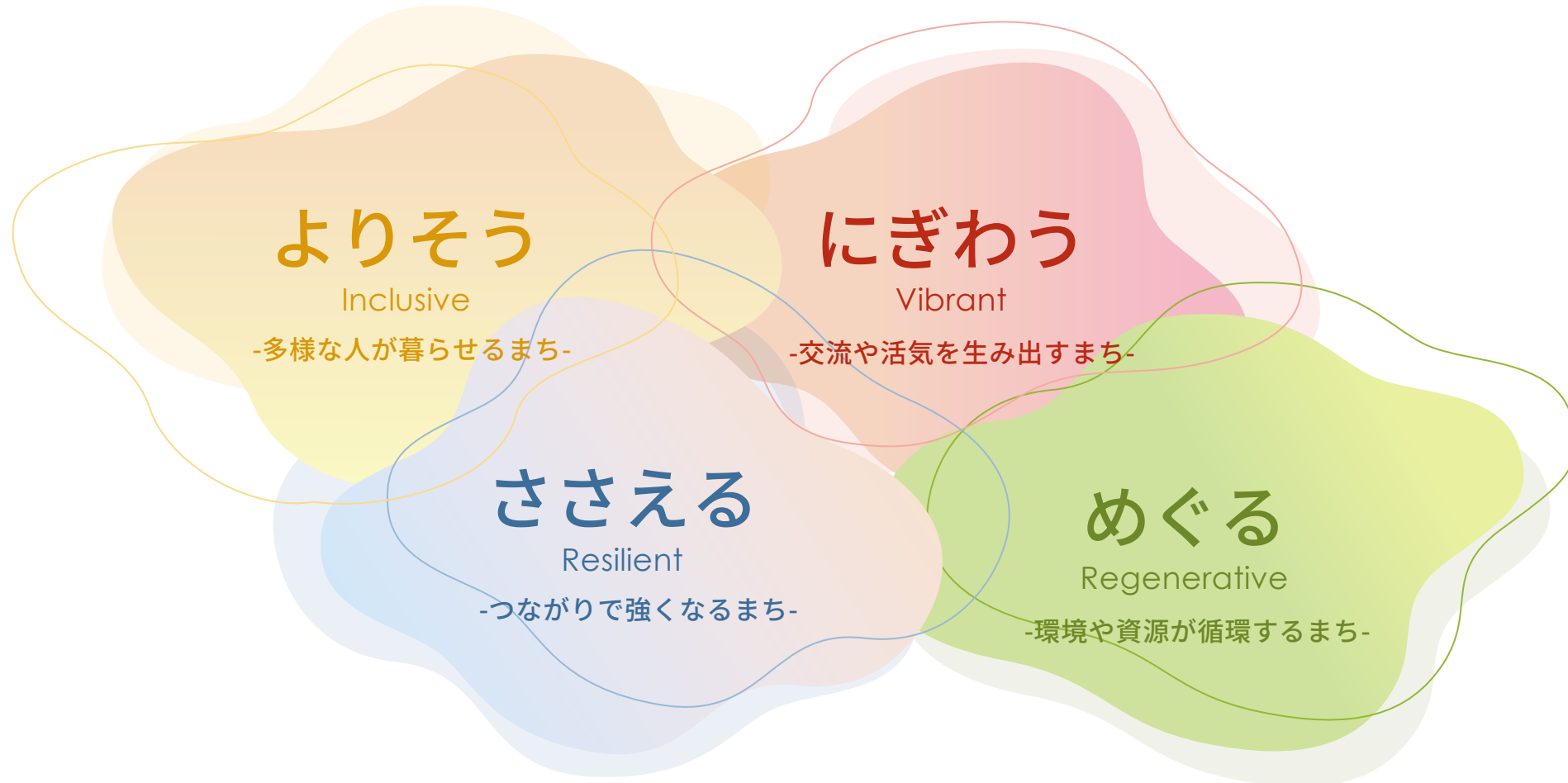
かつての“当たり前”が通用しない今、日建設計は、専門性の枠を超え社会環境デザインを提案する企業として、2023年に共創プラットフォーム「PYNT」（ピント）を開きました。PYNTは、想いを持った個人が集まり、社会課題を中心にチームを作り、共に事業を構想し、社会実装を目指す活動の場です。

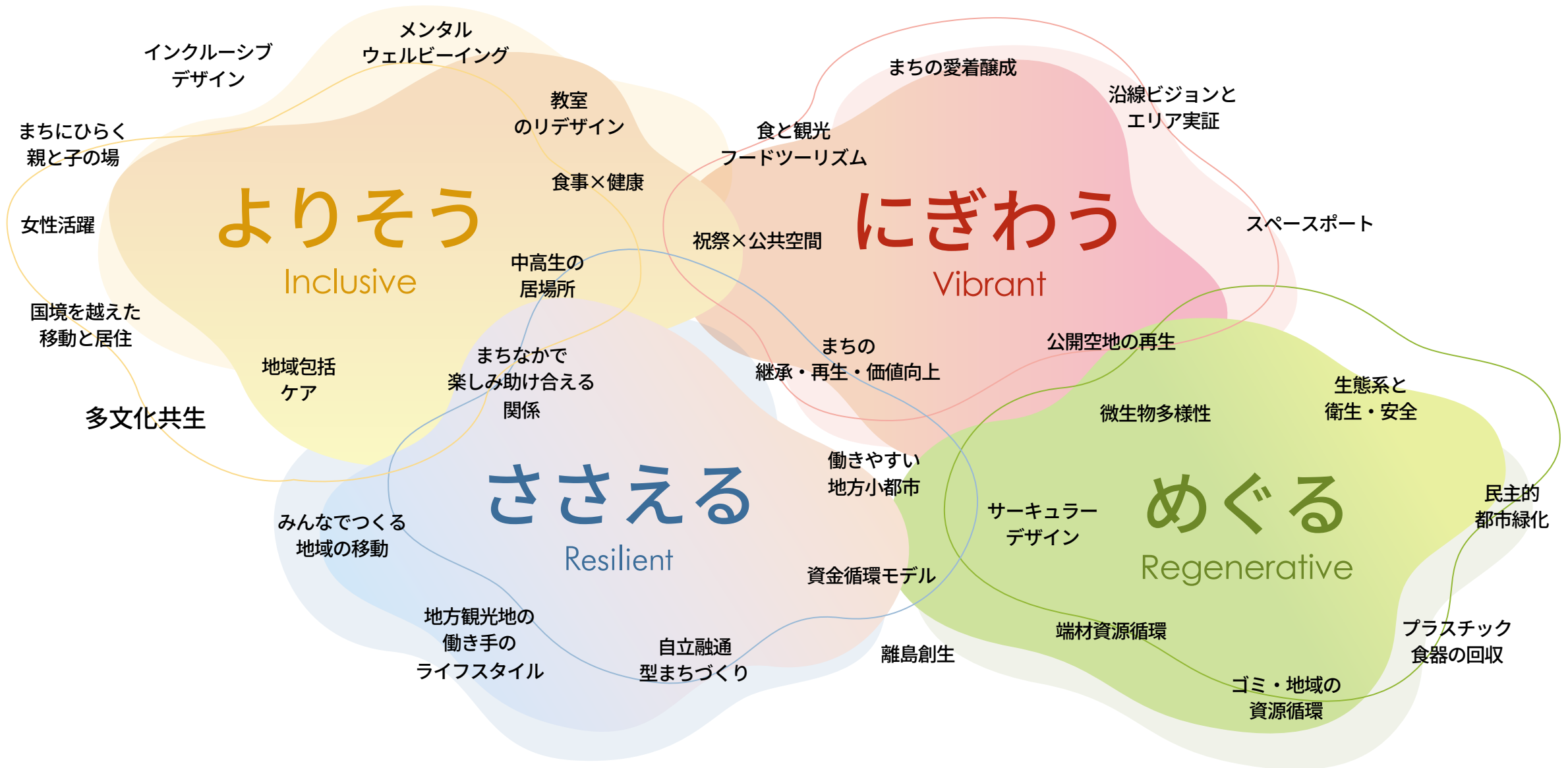


PYNTは東京からはじまり、全国へと展開をはじめています。様々な地域とともに社会課題解決の糸口を探り、解決策が生まれる仕組みをつくります。

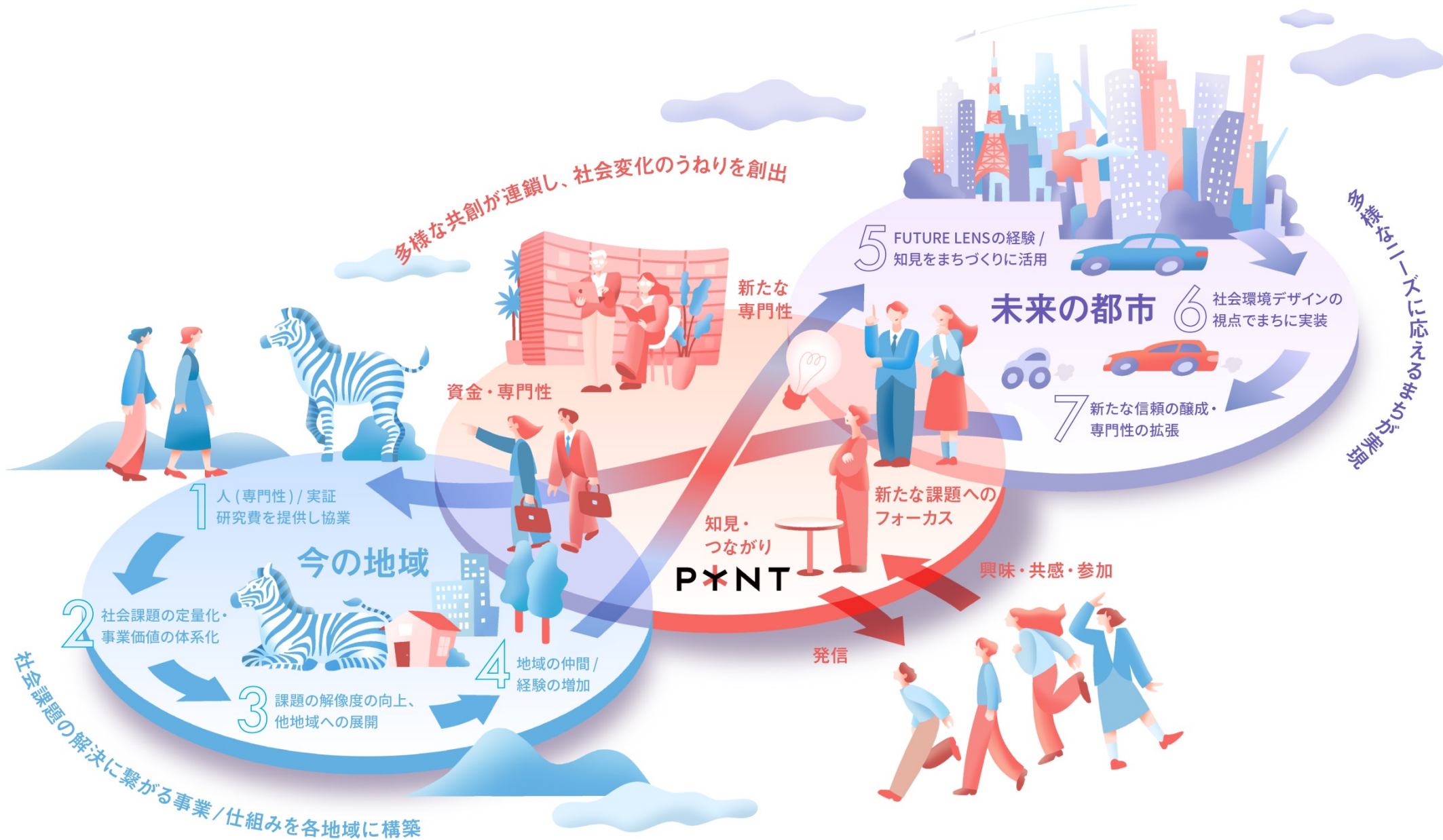


「まちの未来に新しい選択肢をつくる共創プラットフォーム」の実現に向けて、
PYNTでは「ありたいまちの未来」を4つのテーマで捉えています。





日建設計が本プログラムを実現したい変化



FUTURE LENSについて

—— 地域の社会起業家と建築都市の専門家がともに「まちの未来」を実証する、 ——
社会環境共創プログラム

地域で社会課題と向き合う実践者の高い
解像度と、日建設計が125年以上かけて
培ってきた社会環境デザインの専門性と
リソース。

このふたつが接続することで、地域の持
続性を支える新しい仕組みを共につくっ
ていく。

それがFUTURE LENSです。

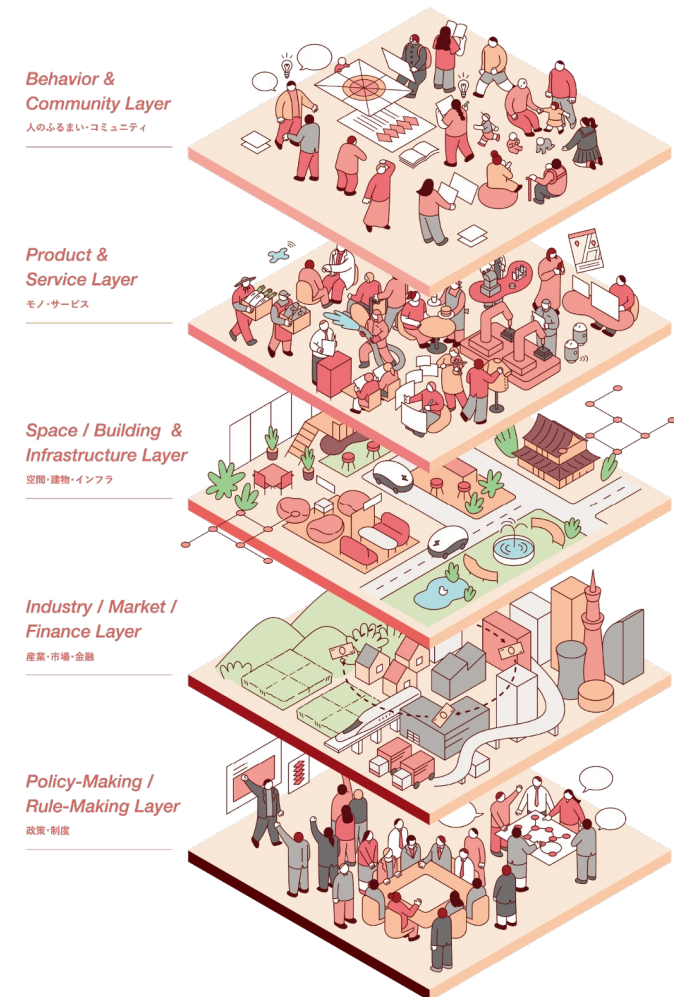


— 社会環境デザインとは

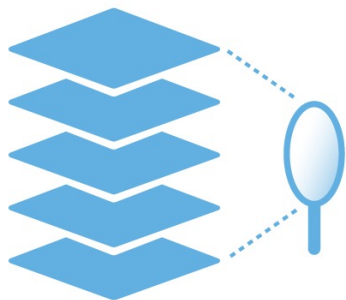
社会環境デザインとは、人々の暮らしや営みを取り巻く環境——空間・制度・サービス・コミュニティ・経済——を、個別に最適化するのではなく、相互に関連するシステムとして捉え直し、「**新しい社会インフラ**」や**社会のあり方そのものをデザイン**する行為です。

わたしたちが「仕方ない」と思っていることの多くは、こうした関係性や構造が絡み合い、硬直化していることに原因があります。**つながり方が変われば、まちの未来に選択肢は増える**。多様な主体がそれぞれの役割を果たし、まち全体の可能性が開かれていく——その全体を同時に計画・設計し、課題を解決していくことを目指しています。

社会環境を捉える5つのレイヤー



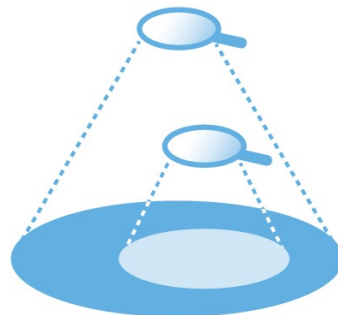
日建設計が長年の実践を通じて培ってきた「社会環境デザインの視点」を、共創の軸に据えています。あらゆる事象を、一つの課題を複数の視点から解きほぐし、実装への道筋を描く。その実践を支えるのが、次の3つの視点です。



領域を重ねて見る視点

————— 複層で捉える —————

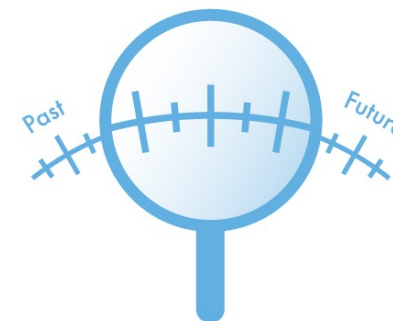
物事を一つの側面から見るのではなく、社会環境を構成する複数のレイヤーが重なり合って事業やインフラが成り立つと捉え、複層的に論点を組み立てます。



スケールを横断する視点

————— 「俯瞰（鳥の目）」と
「現場（虫の目）」の往復 —————

俯瞰（鳥の目）と現場（虫の目）の往復を重ねることで、個々の取り組みが社会インフラを支える仕組みにどうつながるかを読み解きます。

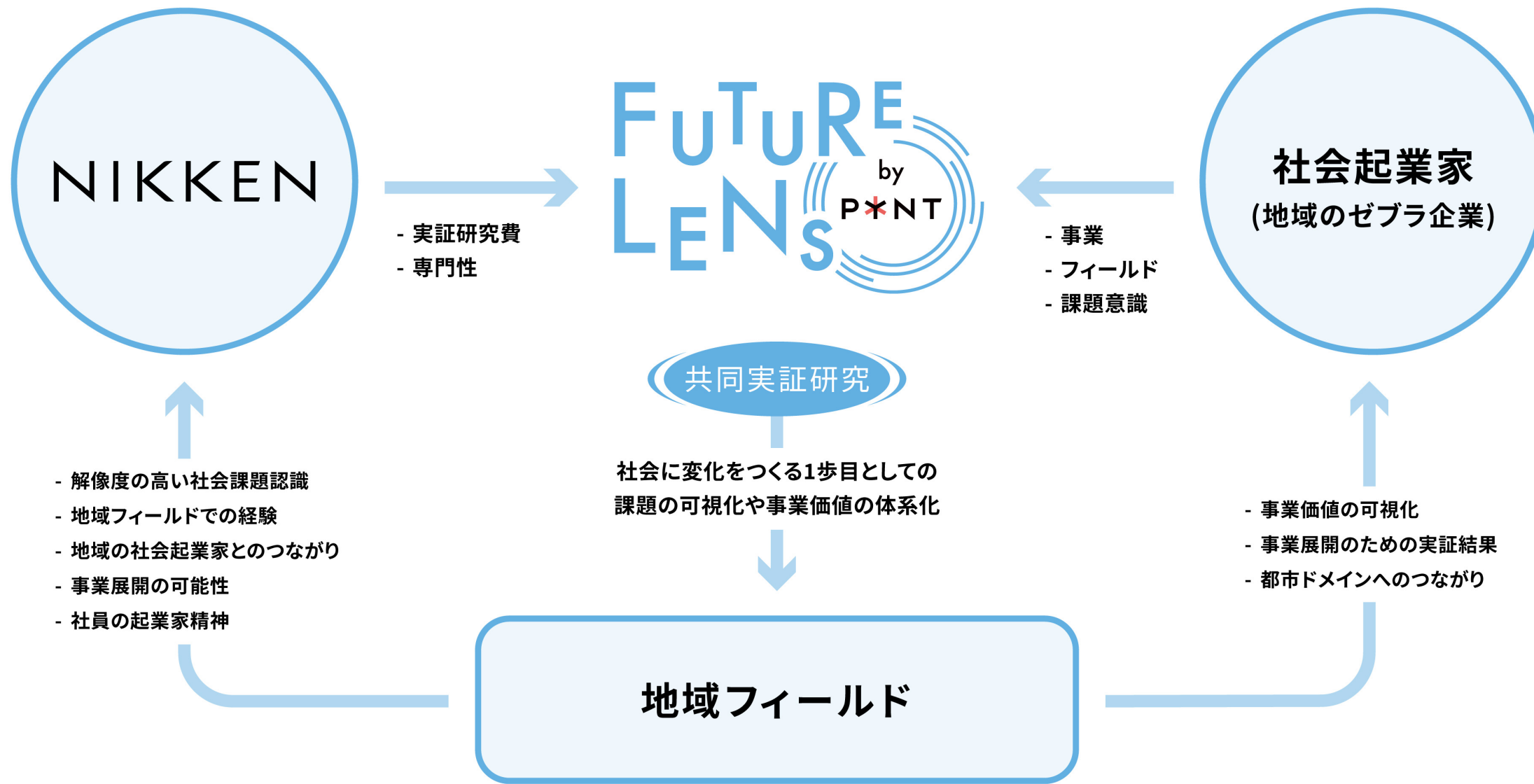


時間軸を広げる視点

————— 長い時間軸での持続性 —————

建築や都市を考える時間軸は数十年～百年単位。同様に長期的な視点で、受け継いだ文化、歴史や風土を紐解き、未来の社会に必要なインフラを構想します。

FUTURE LENSの仕組み



本プログラムでは、ありたいまちの未来に関する4つのテーマに対して、「社会課題や事業価値を可視化・定量化」、「制度を読み解き、仕組みを生み出す」ことに取り組むことで事業を前進させることを目指します。

PYNTの注力テーマ

よりそう INCLUSIVE

あらゆる人が共生し、誰もが自分らしく暮らせるまち

にぎわう VIBRANT

ワクワクや楽しさが詰まった、活気あふれるまち

ささえる RESILIENT

リスクに備え、直面する課題に柔軟に対応できるまち

めぐる REGENERATIVE

自然環境に優しく、持続可能な暮らしを実現するまち

本プログラムの取り組み

価値をはかる

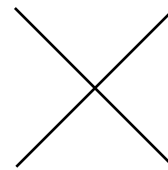
問いを立て、構造化し、可視化する。事業の本質的な意義を言語化・構造化し、社会的な価値として証明可能な状態へと高めます。

- ・取り組む課題の構造化
- ・事業の価値の可視化
- ・地域内ニーズの可視化・定量化、など

価値をひろげる

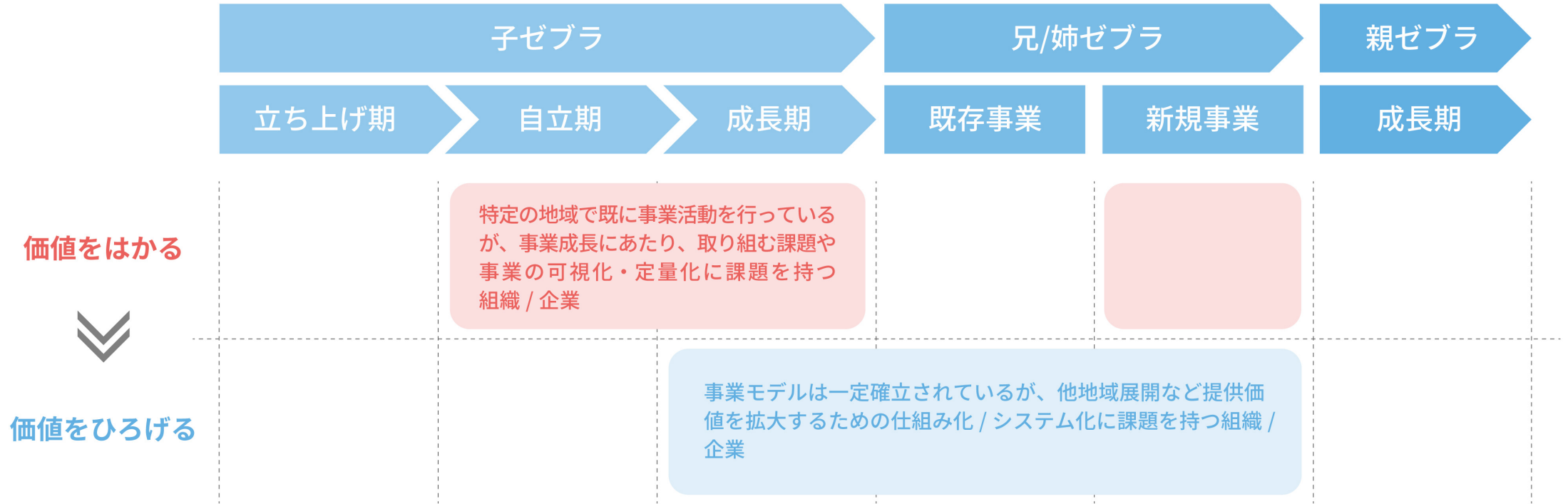
実証された価値を、制度・ネットワーク・空間を通じてまちへと広げ、持続可能な仕組みとして社会に実装します。

- ・都市計画制度を活用した事業戦略づくり
- ・他地域展開に向けた事業のモデル化、など



対象企業(イメージ)

「価値をはかる」「価値をひろげる」のいずれか、または両方に該当する取り組みを募集します。本プログラムの共創を主体的に推進できる、一定の事業基盤とリソースを持つ子ゼブラ（自立期以降）、兄/姉ゼブラ企業を主な対象とします。



【子ゼブラ】

創業・成長期の比較的若いゼブラ企業

【兄/姉ゼブラ】

事業規模こそ大きくはないが、地域や産業のリーダー的存在として、子ゼブラの規範となり共創を促すゼブラ企業

【親ゼブラ】

ゼブラ的経営を実践しながら全国規模で事業を展開し、新規事業や CVC 等により企業や事業を育てられるゼブラ企業

本プログラムの提供価値 (1/3)

1 | 価値の実証に必要な資金と共創社員

中長期的な社会インパクトを見据えた実証研究費を、1事業者あたり年間最大500万円（2年間で最大1,000万円）提供します。また、多彩な専門性を持つ日建設計社員が共創社員として2年間伴走し、共に問いを立て、現場で検証し、走り抜く仲間として関わります。

実証研究費

地域の現場で「実証」を行い、成果を生み出すための年間最大500万円

共創社員による伴走

建築設計における多様な専門性を持つ社員が伴走。それぞれの課題意識と強みを活かし、スーパーゴールに向かって共に走り抜きます。



2 | 価値の可視化・体系化に必要な日建設計の専門性

社会起業家のもつ「価値を定量化できていない」「事業を一步前に進めるために課題を構造化したい」「どのようにまちに展開していけばいいかわからない」といった課題に対して、日建設計が持つ3つの力で応えます。

専門性や人をつなぎ、関係者を調整して「まちに確かな一歩を実装する」力

価値をはかる力



可視化する

定量データと現場の定性情報・地域の歴史を統合し、課題の構造を可視化。議論と意思決定の精度を高めます。



定量化する

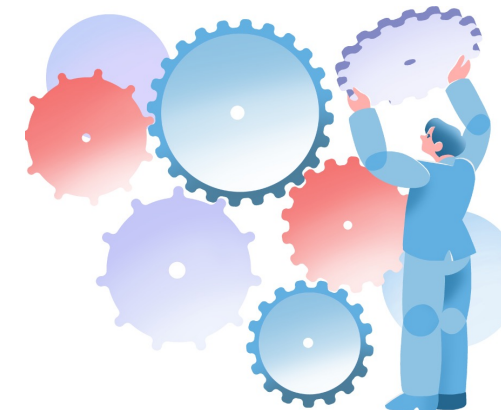
これまで数値化が難しかった環境的・社会的な価値を、測定可能な指標へと翻訳し、客観的な評価と比較を可能にします。

価値をひろげる力



制度を読み解く

大規模設計で培った合意形成の技術を活かし、地域課題に必要な制度の仕組みを深く理解。社会に実装するための具体策へと繋げます。



仕組みをつくる

ありたいまちの姿の実現に向けて必要な機能を構想し、持続可能な仕組みを設計。ひとつの地域の取り組みを、社会に広く実装します。

3 | 共創のインフラとしてのPYNTと日建設計、Z&Cの伴走体制

大企業とローカルゼブラが対等につながるPYNTのフラットな共創コミュニティと、イベント・展示・ワークショップが行える発信の場を提供します。また、ゼブラアンドカンパニーが持つ経営・事業開発の視点と社会的インパクトを生み出す視点、全国の地域ネットワークを通じて、事業の深化と展開を支援します。

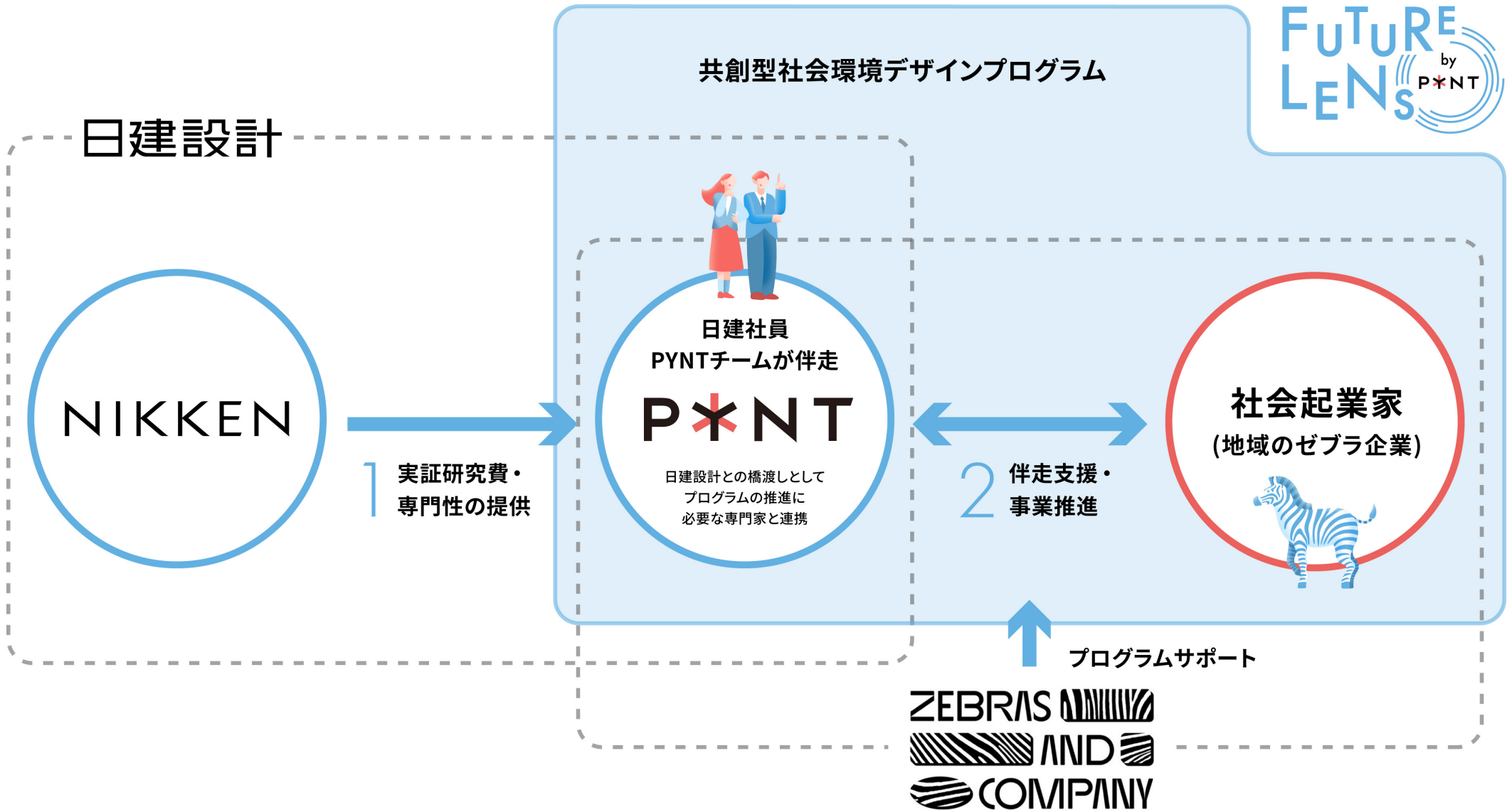


イベントや展示を行える発信の場

WSを通じた共創アイデアの創出

PYNT MEMBERSとの多様なネットワーク

本プログラムの支援体制



本プログラムでは、日本でゼブラ企業の支援を行っている

「株式会社Zebras and Company（ゼブラアンドカンパニー）」と共同で運営いたします。

— ゼブラアンドカンパニーとは

「Different scale, Different future」をテーマに、誰もが社会課題解決と持続的で健康的な企業経営に挑戦できる「優しく健やかで楽しい社会」を目指し、投資と経営支援を行う会社です。投資・経営支援、行政や金融企業との連携、「ゼブラ企業」に関するリサーチと情報発信を通してゼブラ的経営を体系化し、ゼブラ経営の社会実装を目指しています。

ゼブラ企業とは、短期・独占・株主至上主義といった現在の資本主義のあり方を象徴する「ユニコーン」に対して、アメリカの女性起業家4人によって2016年に提唱された概念です。日本では、ゼブラアンドカンパニーの創業者が2019年から啓蒙普及を開始し、当初から数多くのローカルゼブラ企業から反響がありました。2023年度・2024年度には、国家戦略として骨太の方針の中にゼブラ企業の推進が明記されるなど、日本国内でも着実にゼブラ企業のムーブメントが広がっています。

ゼブラアンドカンパニーは、設立当初より全国各地のローカルゼブラ企業と連携し事業に取り組んでいます。詳細はHPをご覧ください。

<https://www.zebrasand.co.jp/>



— ゼブラ企業の4つの特徴

1. 事業成長を通じて、より良い社会をつくることを目的としている
2. 時間、クリエイティブ、コミュニティなど、多様な力を組み合わせる必要がある
3. 長期的でインクルーシブな経営姿勢である
4. ビジョンが共有され、行動と一貫している

本プログラムの内容

本プログラムでは、実証研究費だけでなく、日建設計の社員が伴走支援いたします。日建設計の持つリソースを最大限に活用いただき、ともにプログラムを推進していきたいと考えております。

(※ 本プログラムにおける事業主体者は採択企業となります。実証研究で生じた事故等の責任は負いかねますのでご了承ください)

— 金額・期間

年間最大500万円

原則2年継続

(但し、成果報告等を踏まえ、毎年継続判断を実施)

— 伴走支援

採択企業ごとに日建設計PYNT
チーム・Z&Cが伴走支援を担当

(事業推進サポート、プロジェクト管理、日建設計
のリソースとの接続など)

週1回の稼働を目安とし、原則本
プログラムに関する活動のみ対象

日建社員に加えて、PYNTの共創
パートナー企業の社員 (日建設計の社外人
員) が参加する場合がございます

(採択企業の皆さまには事前確認を行います)



初年度の共創事例

第1期採択企業について

FUTURE LENS第1期では、地域や事業規模、そして事業のテーマの異なる多様な3社を採択。それぞれに共創社員が組み、「まち」と向き合う2年間の共創がここからスタートしました。



小平株式会社

鹿児島県日置市

設立年：1912年

社員数：74名

事業規模（24年度売上）：370,000万円



代表者
小平 勲太



共創社員
前田 直哉
日建設計
都市・社会基盤部門



共創社員
野内 美菜
日建設計
都市・社会基盤部門

SUPER GOAL

人・自然・企業が互いを「養生」しあう循環をつくり
まちをより美しく、文化的で、過ごしやすいとする

▶ 取り組み詳細は、ANNUAL REPORT p14参照



医療法人社団オレンジ

長野県軽井沢市

設立年：2011年（オレンジ設立、
2019年ほっちのロッヂ事業開始）

社員数：72名（ほっちのロッヂ22名）

事業規模（24年度売上）：約73,000万円



理事長
紅谷 浩之



理事
藤岡 聡子



共創社員
大野木 しのぶ
日建設計
設計部門



共創社員
村瀬 慶征
日建設計
設計部門

SUPER GOAL

医療をまちづくりに組み込み、
いのちの終わりを支える社会が実現される

▶ 取り組み詳細は、ANNUAL REPORT p18参照



株式会社水中

東京都国立市

設立年：2023年

社員数：2名、総スタッフ15名）

事業規模（24年度売上）：2,760万円



代表者
坂根 千里



共創社員
中村 伸也
日建設計
設計部門



共創社員
多々納 有希
日建設計
イノベーション
デザインセンター

SUPER GOAL

「生活圏内で、頼り合い、楽しみ合える
つながりのある社会」の実現

▶ 取り組み詳細は、ANNUAL REPORT p22参照

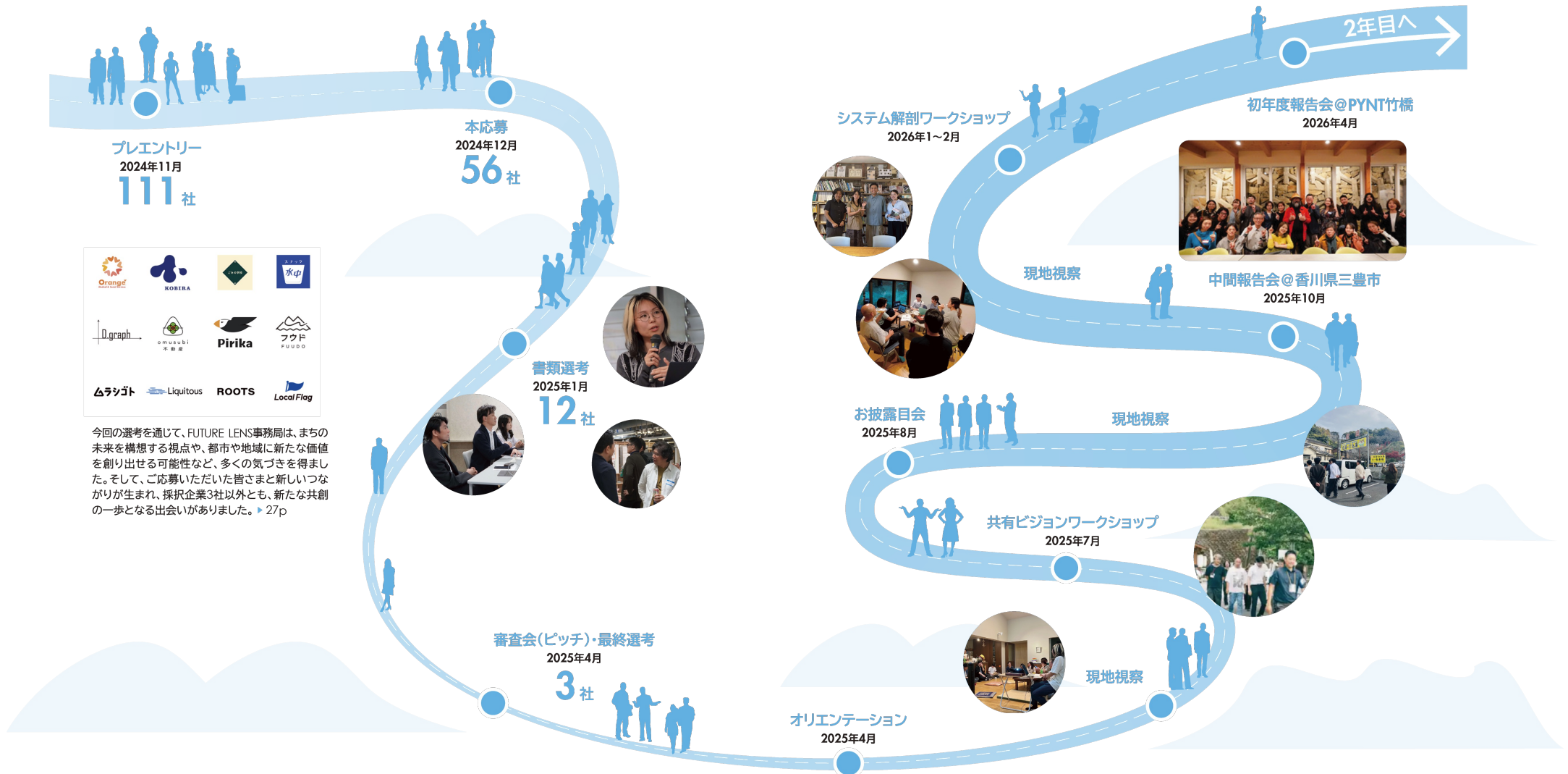


初年度1年間のロードマップ

FUTURE LENS初年度（2025年度）の取り組みについて詳しく知りたい方は[ANNUAL REPORT参照](#)



書類選考・最終審査を経て採択が決まり、研修・オリエンテーション・現地視察・ワークショップ・報告会と歩みを重ねてきました。1年目では、仮説を立て、検証し、対話を深めながら、2年目へと進んでいきます。





この歩みを支えるのが、PYNTが培ってきた4つの共創フレームワーク、FUTURE LENS METHODです。課題を構造として捉え、実現したい社会の姿（スーパーゴール）を描き、具体的なアクションへと落とし込んでいきます。

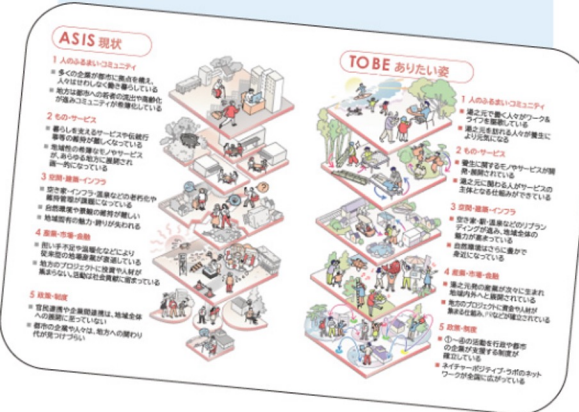
1 構造を捉える 社会環境システムマップ

複雑に絡み合う社会・事業・空間・制度などの関係性を 5のレイヤーで整理し、全体構造を可視化する



2 変化を設計する As is To beデザイン

現状(As is)と理想(To be)のギャップを構造的に捉え、実現に向けた変化の道筋を設計する



3 未来を描く 共有ビジョンワーク

チームでありたい未来像を言語化し、共通の方向性を形成する



	共有ビジョンWS	1-2年	5年	10年
社会	未来を共有する社会環境マップ	1. 未来を共有する社会環境マップ	2. 未来を共有する社会環境マップ	3. 未来を共有する社会環境マップ
FL	未来を共有する社会環境マップ	1. 未来を共有する社会環境マップ	2. 未来を共有する社会環境マップ	3. 未来を共有する社会環境マップ
個人	未来を共有する社会環境マップ	1. 未来を共有する社会環境マップ	2. 未来を共有する社会環境マップ	3. 未来を共有する社会環境マップ

4 行動に落とす アクションデザインワーク

描いたビジョンを具体的な施策や取り組みに落とし込み、実行可能な形へと変換する



初年度の取り組みを通じて見えた、共創のポイント

FUTURE LENS初年度（2025年度）の取り組みについて詳しく知りたい方は[ANNUAL REPORT参照](#)



単なる連携や支援ではなく、社会に変化を生み出す共創を目指すFUTURE LENS。初年度1年間の実践を通じて、意味ある共創を生み出し、事業を前進させるためのポイントが見えてきました。

2年目の共創に向けて

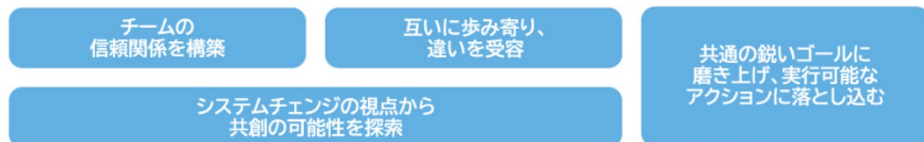
Future LENS | NIKKEN SEKKEI LTD

「仮説設計」フェーズ プログラム開始後3カ月

重要ポイント

- ・ 信頼関係を築くため、手間を厭わず現地に訪れ顔をみて話す
- ・ お互いの背景や前提の違いを理解しあうため、対話を重ねる
- ・ チームの方向性を描くため、議論やワークショップを設計する(共創ファシリテーション)

成功状態



「初期検証」フェーズ プログラム開始後4カ月～12カ月

- ・ 仮説を磨き込むために、摩擦を恐れず本音でやり取りをする
- ・ 次のアクションに繋げるため、相手の立場に立って提案しあう
- ・ 共創の広がりをつくるため、社内外のパートナーを巻き込む
- ・ 相互の学びあいのため、採択企業同士・共創社員同士が交流する



FUTURE LENSでの取り組み



初めての顔合わせ。プログラム内容だけでなく、組織や個人への理解を深めるキックオフを実施



現地に足を運び、関係者との対話や視察を通じて、地域と事業のリアルを体感



個人の想いと社会の変化、チームの理想状態を重ね合わせ、共通のビジョンとアクションを構築



「もしもステッカー」でまわりの隠れた声を拾い上げたり、設計技術を活かしながら仮説を可視化



定期的にそれぞれの成果を発表し、お互いにフィードバックしあいながら仮説をアップデート



新しい知見・視点を取り入れるため、PYNT内でのイベントや新たな連携のヒントを見つける



採択3社にとどまらず、最終選考に残った9社との間にも新たな共創の芽が生まれました。また、定期開催した報告会には、PYNT MEMBERSをはじめ多くの関係者が集い、FUTURE LENSを起点としたコミュニティが着実に広がっています。



選考の過程で出会った事業者の皆さまとも、
FUTURE LENSをきっかけに新たな共創が生まれました。
(画像は最終選考に残った事業者とのフィールドワークの様子)



4/24に開催した第1期初年度報告会の様子。
PYNT MEMBERSも集合し、新たな繋がりへと広がっています。



単純なプロジェクトへの伴走だけでなく、経営メンバーの成長やまちへの解像度の深まりに繋がるプログラムです。ビジョンに向かって地域を良くしていくことが、自社の事業にも跳ね返ってくる。会社を大きく変える一歩になるため、そうした変容プロセスのひとつとして参加するのが良いと思っています。



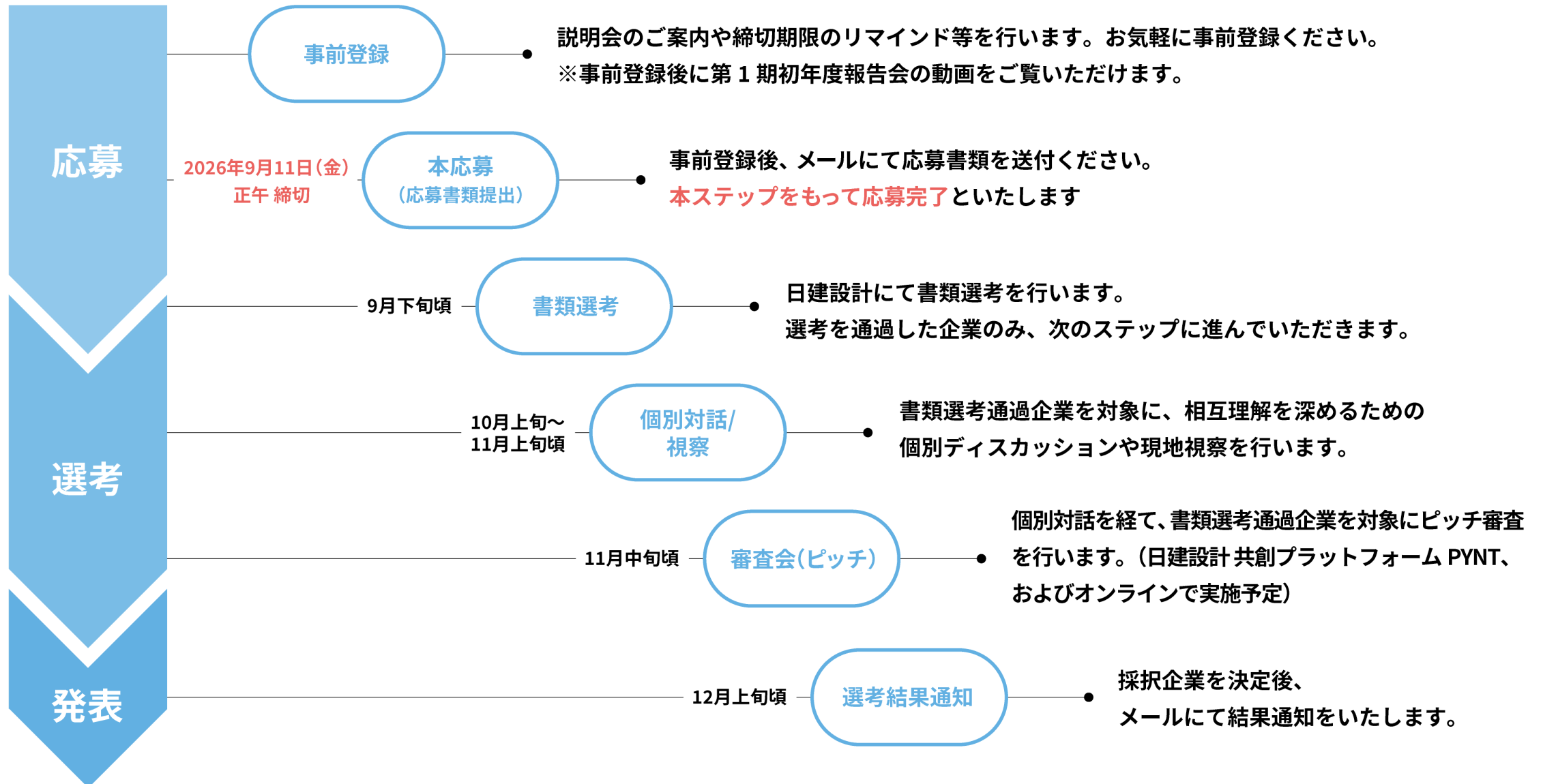
二年間にわたり、共創社員の方々とチームを組んで事業の価値や目指すべき社会像を深く探求できたことは、非常に濃密な経験でした。子ゼブラとして応募を検討されている方は、中長期的な視野を携え、「この機会を活かして自社の事業を成長させ、社会実装を進める」という確固たる意志を持って臨まれると、より有意義な挑戦になると思います。



事業の手応えを感じているが、「でも何か足りない！」という人に良いと思っています。私達で言えば、「価値をはかる」ことはある程度出来ていると思っていましたが、構造化することや、それを使って今までとは違う伝え方ができることを体感しました。価値をはかる・ひろげるという2つを活用してより関わる仲間を深め・増やしたいと思っている人にはおすすめだと思っています。

応募・選考について

選考プロセス・スケジュール



応募方法

— 応募の流れ

以下のURLより事前登録をお願いします。

[事前登録はこちら](#)

事前登録後に届く登録完了メールに、応募要項・本応募申請書ダウンロードの詳細がございます。応募書類をダウンロードの上、本応募申請書に必要事項をご記入ください。

提出書類が揃いましたら、以下メールアドレスに書類添付のうえお送りください。

futurelens@zebrasand.co.jp

タイトル：【会社名】本応募書類提出

— 提出書類一覧

1
本応募申請書

2
決算書等の財務関連書類
(直近3年分)

※直近3年分が無い場合は、決算済みの直近年度分までをご提出ください。
※事業初年度の場合は、今期の事業計画をご提出ください。

3
事業内容が分かる資料
(企業説明資料など)

イベントのご案内

ご応募にあたり、下記イベントを開催いたします。お気軽にご参加ください！

説明会応募は[こちら](#)



1

7月29日（水） 12:00 - 13:30 @PYNT大阪（リアル / オンライン）

場所：日建設計大阪オフィス（〒541-8528 大阪市中央区瓦町3丁目6-5 銀泉備後町ビル 5階）

プログラム説明会 #1

2

8月4日（火） 18:30 - 20:00 @PYNT竹橋（リアル / オンライン）

場所：日建設計東京・竹橋オフィス（〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイド・ビルディング 5階）

プログラム説明会 #2

（説明会#1と同内容予定）

3

8月20日（木） 12:00 - 13:30 @PYNT九州（リアル / オンライン）

場所：日建設計九州オフィス 5階（〒810-0001 福岡市中央区天神1-12-14）

プログラム説明会 #3

（説明会#1と同内容予定）

4

8月31日（月） 12:30 - 13:30（オンライン）

締切直前！応募相談会

※プログラム説明会#1~#3については、前半1時間はプログラム説明、後半30分は交流会の予定です。

NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED